

編社統

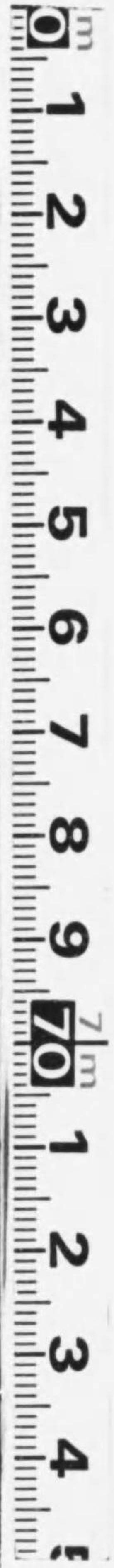
特 249

768

騰
寫
版
の
發
明
家
堀
井
新
治
郎
苦
闘
傳

(輯四十二第統日)

行刊社統日



始



特249
768

日統社編

謄寫版の發明家

堀井新治郎苦闘傳

日統社刊行



「日統社」趣意

金匱無缺の國體を誇る日本國民にして、行住座臥、凡そ日本を考へ、眞に日本を愛へ、日本を念ずる方は、現在の我日本の趨勢が餘りに甚だしく、國民の理想と信念とに反逆することを痛感なさるであらう。是れは新たなる日本更生の陣痛であり、過渡期であるからだと思ひます。

此の秋に際して我國民はたゞ徒らに悲憤するのみでなく、國民一致協力して皇國日本の理想實現に精進しなければなりません。日統社の事業は斯うした時代に對して、國民精神緊張の喚起であり、現代青年の進路に對しての大道を輝す案内であると確信して居ます。

即ち偉人、名士、成功者、は之れを歴史と云ふ時間的立場から眺めると、そこにある時代に卓越した人物であり、社會と云ふ空間的な立場から見渡すと、ある社會に於て斷然頭角を現した人物であります。

尤も人間である以上は、之れを縦横に觀察する時には短所弱點もあり、完全無缺なりとは言へぬであります。然しよく個々に觀察すればそこに何人にも到底比較の出来ない絶對な特徴、長

所があるであります。

ある人は、この優劣は先天的だと言ふ、又優生學上から決定しやうとする、或は運命なりと言ふ人もある、然し是等は一面の眞理であるかも知れぬが、全幅ではないと思ひます。即ち、人間の努力修養が必然的に此等の人々の域に到達し得る事實があるからであります。

努力修養は理論でなく實行であり、體驗に依つて得られるところのものであります。故に本社の名士、成功者の傳記、人物評論、逸話は現代青年にとつて最も良き實踐躬行の參考書なりと深く確信致します。庶幾くば奮つて本會に御加入下され、共に俱に不斷の修養に努力し、堅實な國家發展を目指して邁進致したいと存じます。

日統社

主 宰 中 村 一 一
編輯長 栗 原 俊 穗
速記者 山 田 錠 太 郎
外 社 員 一 同

目 次

堀井元紀翁の終焉……………	一
堀井騰寫版發明の動機……………	三
元紀翁研究の爲め渡米……………	五
堀井新治郎氏と發明完成への苦心……………	八
騰寫版の實施とその普及……………	一四
現在營業の概況……………	二〇
ミリアタイプ印版紙の發明……………	二三
光榮と榮譽の数々……………	二八
☒	
☒	
☒	
我特有の國民精神と發明……………	二九
典型的發明家堀井氏……………	三二
騰寫版の實用化に就て……………	三四

膽寫版の發明家

堀井新治郎苦闘傳

日 統 社 編

堀井元紀翁の終焉

一日中の暑さを洗ひ去つた雨がカラツと霽れた夜空には、潤み勝ちに三つ四つの星がまたよいてその微妙な光は堀井邸の丈餘の黒塀の上にくだけた。堀井元紀翁の病室には五十燭光が鈍重な光を投げかけ、當主新治郎氏に握られた翁の手首には露出した血管のうづきが感じられて、近親者を始め知人の物うげな腫は思ひ合せた様に沈黙の中にこの手首に集まつてゐた。

重眼をみひらいた元紀翁の意識はハツキリしてゐたがもう瞳孔は散大して視力を失つたかに見受けられた。

「新治郎、新治郎」繰返される翁の聲は次第にかすかになつて、そのまゝ又昏々として眠りに入るのであつた。

カンフルの注射が聽て左腕に注入されると翁は眠りから覺めてあたりを見廻した。微笑が眞一文字に結ばれた口邊を走つたかと思ふと、力のこもつた聲がほどばしつた。

「新治郎、新治郎、お前にも随分苦勞を掛けた。俺はもう駄目だ謄寫版の研究を怠らぬ様にしてくれ、社會の進歩と共にそれに伴つた改良發明を忘れてはならぬ。決して慢心する事なく、常に發明前のあの氣持を忘れずに……………」

再び微笑が浮んだ時、醫師から臨終が宣告されたのであつた。

昭和七年七月十九日、一家近親知己の悲しみの中に、元紀翁は慈愼として永眠せられたのであつた。

筆者はこの一代の發明家、文書記録の恩人元紀翁の逝去を悼むと共に、その全心全靈を捧げ、而も親子協力して堀井謄寫版を發明し、文運の將來に劃時代的貢獻をされた苦闘の足跡を叙して、

故元紀翁の靈前に捧げ度いと思ふのである。

堀井謄寫版發明の動機

目白の高臺の一角、女子大學と背脊した、高雅な邸宅がある。漆黒な文餘の塀は此の高臺の一角を迂廻して、僅に舗道を隔てゝゐる。

折柄の朝陽は黒塀の上部に落ちたかを見ると、たちまちに照り返して、周囲のひれ伏した屋並を明るく輝かせた。

東北の塀角に抜け出た、櫟の大樹は、どす黒いうろこ形の連疊した上に一條の木雪を宿してゐる。思ひ出した様に雀が交互に地上を離れて上枝にまひ上る。

此の邸こそ二代に亘つて困苦奮闘能く素志を貫徹し、所謂堀井謄寫版を發明して國家社會に貢獻した堀井新治郎氏の邸宅である。

先代元紀翁は安政三年九月十六日、滋賀縣蒲生郡苗村字賀與丁に菱田彌左衛門氏の二男として

呱呱の聲を擧げ、明治十六年八月堀井家に這入つた人である。

始め内務省農務局出張紅茶傳習所に入り、又滋賀縣綠茶再製法傳習所を経て後、岐阜縣御用掛を拜命し次いで農商務省製茶巡迴教師となり、更に滋賀縣勸業委員を拜命し蠶糸業の發達を圖り、或は米質改良員となり、模範農場を起して農産品の改良に盡力し、斯界に數々の功績を残してゐる。

斯く多年の官職にあつて自ら繁雜な文書事務を處理するに當つて、翁は其の方法の極めて煩瑣なるを體驗し、何等かの簡便な處理方法によらなければ一官廳の不利不便のみに止らず、國家文運の前途頗る憂慮すべきものがあることを痛感した。此の切實な體驗こそ、後年堀井騰寫版の發明を成就する素因となつたのである。即ち翁はこの際簡便にして有効なる印刷器を發明して、従つて煩雜極まる手数を除去し、時間の節約が出来たならば國家社會を益し、廣く文化の發展に資するところ少からざるを知つて、日夜意を印刷器の發明に傾注したのである。

而もこの遠大なる企圖と、日常の職務との兩全を期し難きを悟り、遂に斷然官職を辭するに至つた。爾來専ら輕便印刷器の完成に従事し當主新治郎氏と共に發明改良を行ひ、以て今日見るが

如き完全な騰寫版を造り得たのである。

現在新治郎氏の發明にかゝる騰寫版は、鐵筆版を始めとして、輪轉騰寫機、聯成式騰寫版、綜合式騰寫版、コロタイプ式騰寫版の數種に及び、更に騰寫版器械部分品に關しては、インキ盤、ローラー及手、鍍及書臺、鐵筆等、又印刷用紙に關しては、鐵筆騰寫印版紙、毛筆騰寫印版紙、タイプライター用印版紙、印刷用印肉の各種に亘つて、出願總數、六百四十七件、特許四百三十三件、内日本特許、三百九十四件。英國、米國、佛國、伊國、加奈陀等の外國特許三十九件（昭和六年末現在）の實に驚くべき多數に達してゐる。

元紀翁研究の爲め渡米

古來毛筆を以て文書記録の具とした我が國に於ては、文書の一般化による文化の進みは極めて遅々たるものであつた。文字を解するものは少數の上流社會に止まり、一卷の書を發兌する爲には煩雜な筆寫により多くの時間を浪費したのである。かゝる複雑な複寫は遂には數多の異本を生

んで、後世考證學上の不統一と困難とを齎らした。

六

明治聖代に入るに及んで、西歐文化は洪水の如く我が國に浸入し來り、文書事務は俄に繁雜を極めたが、之に對して未だ文化的施設を有しなかつた。漸くにして古來の毛筆使用は能率的なべんに代へられ、印刷機は輸入されたが、その印刷機なるものも大資本を有する經營者にのみ限られ、到底一般人の日常用途に適すべくもなかつた。これら諸官廳學校を始め其他の文化團體に於ては、日々繁雜な文書事務の處理に關しては僅に蒟蒻版等の幼稚な施設を有するに過ぎなかつた。誠に明治二十五六年代に於ける速刷方法を擧ぐれば主として蒟蒻版及炭酸複寫紙であつて、極く一部には壁氏版を使用せるも、蒟蒻版は多數の複寫を得難く、又時日の経過に従つてインクの消散する缺點があり、壁氏版は化學的處理を要する故に熟練を経ざれば使用し難い不便があり、又炭酸紙は一回に僅か數枚の複寫を爲し得るに過ぎず、殊に指頭の用紙を汚染するの弊があつた。されば當時官廳、諸會社の多くは蒟蒻版を使用し、然らざるものは石版印刷器を備へ別に印刷工をして之に當らしむる状態であつた。而も文書事務の繁雜は當時の速寫法の如き姑息な手段には

委し難い有様であつた。茲に於て銳意印刷器の發明研究に歩を進めてゐた元紀翁は、未だ研究機關の整備せざる當時にあつて、想像外の困難に逢着しつゝよく研究を重ね大体の腹案を得たが、たま／＼米國シカゴに開催される萬國博覽會を機として、決然米國に渡航することになつた。當時歐米先進國に於ける斯界の状態を見るに、千七百八十年には英人ゼームスワットの複寫法あり、千八百六年には同じくウエツドの複寫法あり、千八百十三年には同じく、ペーコン、マツケンヂー及びトンキン三氏の複寫法あり、千八百七十四年には、伊國人チツカトの複寫法、千八百七十五年には米人エヂソンの複寫法等があつた。而しそれ等は未だ完全の域に達せず、のみならず價格不廉の爲め、到底一般人の使用に堪え得るものではなかつた。

氏は天涯の異境にあつて具さに苦楚を嘗め、その鞏固なる意志を以て發奮の念を弱めず、各方面に至つての視察を遂げ、略ぼ成案を得るに至つて明治二十六年十月歸朝したのである。

七

堀井新治郎氏と發明完成への苦心

當代新治郎氏は明治八年八月十三日、滋賀縣蒲生郡朝日野村大字岡本に生れた。同家は朝日野村に於ける舊家であつて、その祖先は代々代官を勤めて居たが、維新以後は主として醸造業などを營んで支店を各地に置き、手廣く商賣して居たが、新治郎氏の嚴父が早く死去さるゝに當つて醸造業を廢せられた。元紀翁は即ちその養父である。

始め同地の小學校に入り、小學校制度の變革と共に轉じて足利漢學塾に學び、後滋賀縣立彦根中學校に通つたが在學四年、病を得て中途退學の餘儀なきに至つた。その後病氣快復と共に三井物産會社函館支店に入り商業見習の傍ら三年間英語を修學した。

此の會社員生活は氏をして、謄寫版の必要を益々痛感せしめたが、たま／＼養父元紀翁が發明に着手すると共に職を辭し、その發明に參與することになつたのであつた。

然し乍ら輕便印刷機の發明は一朝一夕にして完成すべきものではない。研究精勵、多年家事を

顧みる事なく、資産は盡きんとして、一家の生計は今や支へ難きものとなつたので、累代の土地を賣拂ひ發明研究の資に供したが、而も研究の歩を進めるに従つて、その經費は想像外に膨張し堀井家一家は衣食にさへも窮するに至つた。あまつさへ元紀翁は滯米中の事とて、世帯馴れぬ新治郎氏は百方奔走するも金策の途がつかず、最早賣るべき土地もなく、遂に意を決して最後に残る家寶の軸を賣却する事となつた。

悲嘆の涙にむせびつゝも氏は先づ隣の古物商の許へ急いだ。漸く探しあてた古物商の店は、こじんまりとしてゐて店先には顧客らしい商人風の人が二三人店主との間に白刃の抜き身を交互にためつすかしつ眺めてゐた。店頭付近いた氏を見ると一齊に、怪訝な瞳を送つた。思ひ切つて這入らうとした氏は、すつかり氣遣れがしてそのまゝ踵を返して、あてどなく町内をさまようのであつた。

斯くして幾度もこの古物店の様子を息づまる様な昂奮の中に窺ひ、夜に入つて人のときれたのを見すまして漸くこの店に飛入る事が出来た。

不審に思つてゐる店主に事情を打明けたが、發明に對しては何等の理解も同情もない一個の商人である彼は冷やかに捨て値同様の二束三文より買ひ取らなかつた。

幾何かの金を手にした氏は歸途良心の苛嘖に苦しむのであつた。

「俺はどうしてこんなに零落してしまつたのであらう」

「何故家實まで賣却しなければならぬ程意氣地ない人間になつたであらう」

苦しんだ、惱んだ、然し研究の爲にはどんな犠牲をも忍ぶより外はなかつた。

「必ず完成させて見せる」

「これで意志が挫ける様なら、家實まで賣却した事に對して、祖先に對し、社會に對して、申譯なす」

苦しめば苦しむ程氏はその意志を強め益々責任の重壓を感ずるのであつた。この苦難、この信念あつてこそ他日の發明の喜びが得られたのである。

氏はこれ以來一層の努力を研究の上に傾注された。

家實、家財一切を賣却した氏は今や、住むに家なく、居るに席なく、竊に家族相擁して悲歎の涙に暮れるのであつた。

而も隣人は之を目して狂氣の業とし、通學の惡童には家族の立働くを見て、漫罵をあびせかくる者があるなど、見るに堪へざる悲惨なことが度々あつた。而も周圍の非難と無理解の總てを超越して内心光明を望み、血みどろの努力を續ける様は、正に戰場に於ける勇士の意氣があつたであらう。

氏は斯くて、最後に残された佛壇を祈願寺に預け、身に祖先の系譜と祭具をまとひ、血を吐く思ひをして整へた僅少の資金とを抱いて、一家相談の上、新治郎氏は養父の渡米中研究材料を得るに困難なる郷里より、寂しい乍らも新しい希望と、信念のもとに明治二十六年四月、七十餘歳の祖母を伴つて上京する事となつた。

信仰の念に篤い氏は先づ郷里を離れるに當つて、一家相携へて祖先の墓前に跪き、誓つてその發明を完成し家名を挽回する旨を告げた。

入相の鐘の音は墓地を下る新治郎氏の一步々々にこもつて、灰色に立竝ぶ墓標の間を洗つて來る夕風は肌寒くその横顔に吹いた。

堀井家一家は語る者なく、振り向く者なく一様に大地にそゞいだ視線には餘りにも離郷の侘びしさがあつた。

上京後の堀井氏一家は、神田區鍛冶町に居をトし更に研究を續けたが、資金は悉く費され、一家の窮乏は愈々迫つて辛苦名狀すべからざるものがあつた。

一日新治郎氏はその研究の疲れを癒すべく、早朝神田橋附近を逍遙した時のことである。附近は道路の改修の爲めに掘り返されて、兎ある町角に公孫樹の根が溝の中に露はに見えてゐた。

樹幹は露出した根の上に眞直に支へられて、つばらかな若芽は朝露を宿し、その葉にも枝にも何等の疲勞を見出す事は出来なかつた。

地上の幹にも枝にも、葉にも少しの苦しみも認める事の出来ない朝の公孫樹、そのすく／＼と伸びた如何にも自然な姿、しかし地下にあつては大小の根が曲りくねつて、小石を避け、岩を穿ち

多くの苦しみを藏してゐる。この地下の根の營みを考へた氏は、此處に自己の生活を思ひ浮べた。「自分の現在は苦しい生活ではある。然し世の凡てはこの公孫樹の地下の營みの如く、苦しみ、もがき乍ら、而も地上の公孫樹の如く伸々した、楽しい生活の様に見えてゐるものではあるまいか、自分の發明の完成せぬのは、地上の枝葉を伸ばすに相應しい、地下の營みが足りないのである。」

斯く考へた氏は露出した舗道の公孫樹の根に對して敬虔の念を感じたのであつた。

家に歸つた氏の心の底には新しい光明と、今迄に嘗て經驗した事のない偉大な力とが五體の底から自ら湧き上るのを感じた。

其の後の氏は全く別人の如く、甦生の意氣を以て、凡ゆる苦難に堪え一意専心研究に没頭することが出来た。

而して間もなく歸朝された元紀翁と一心同體、飽く迄も初志の貫徹に邁進すべく、全く寢食を忘れての苦闘であつた。

斯くて明治二十七年一月堀井氏父子の苦惱に疲れた面には始めて快心の微笑が浮んだ。多年の辛苦は遂に酬いられて今日の優秀を誇る堀井騰寫版はこゝに發明されたのである。

騰寫版の實施とその普及

茲に於て氏は直ちに特許出願を辨理士に託せんとしたが、その資金に乏しき爲め自ら發明の明細書並に圖面を作製し出願した。然るに書類不備の故か、折角の發明も不幸査定拒絶の悲運を見るに至り、堀井一家の失望は言語に絶するものがあつた。然し乍ら文書事務界の狀勢は既に斯かる利器の出現を待望してゐたので、氏は遂に特許の保護を受くる事なくして同年七月始めて騰寫版なる名稱の下に之を發賣する事となつた。而して器械の改良は他日時勢の進運に俟つことゝして、先づ木器に適用する騰寫印版紙の發明に進み、之も亦幾多の失敗を重ねた末、遂に鐵筆用印版紙の發明を完成して明治二十八年三月十二日特許第二四九九號を受けた、是實に本邦騰寫版の濫觴であつて、後世天下を益する起源となつたのである。

斯くの如くして漸く速寫法の根本たるべき印版紙は發明されたのであつたが、之が利用を徹底させ普及させねばその素志の貫徹は爲し得られないのである。而も多年の苦心研究により家資は全く蕩盡され、財囊全く空乏を告げ、所要の原料品さへ需め難い今日、發明の實施は地にゐて曉星を拂ふが如き有様であつた。茲に於て氏は、自ら技師となり、職工となり、廣告人となり、忽ちにして行商人に轉ずるなどの並々ならぬ辛苦艱難を續け家族、能く之を理解し協力一致事に當つたのである。

殊に母堂ヒデ氏、新治郎氏夫人コト氏の如き、何れも名門に生れてよくこの間、或は裁縫に技藝にその力を盡して内職してその生活費の一部を補ふ等、全く涙含ましいものがある。斯かる理解と内助の功あつて元紀翁も當代新治郎氏も能くその發明に邁進するを得たのであつて、この劃時代的の發明の裏面に氏を扶けた家族の愛と理解を忘れてはならぬのである。

扱發明された騰寫版に自信を持つた氏は、之を廣く世人の利用に供する策としては、先づ眼前にその便益を示すに如かずとなし、人をして本器を携帯各地を行脚せしめ其の實演をしてその機

能を理解せしめ、或は新聞雜誌に廣告して世の注意を喚起する等、着々としてその歩を進めたのであつた。

然るに當時の官衙、町村役場等に於て繁雜なる文書事務に惱めるに乗じて、粗惡なる炭酸紙の類を鬻いで暴利を貪るの徒が續出し、同器の販賣人も之等不正の徒と同一視せらるゝ爲め、あたし新發明の謄寫版もその購買を躊躇する者多く、容易に衆人の信頼を受ける事が出来なかつた。然し乍ら東京帝國大學講師獨人ウエングステン氏は優秀なる發明なりと賞讃し、自ら之を使用し又横濱一七六番獨逸モルフ商會に對し紹介せられ、同商會は本器を絶讃し茲に資金の供給、製品の歐洲一手販賣を希望して、屢々交渉された。又和蘭公使館書記官ボルデル氏は之が後援を申出たのであつたが。發明家としての畢世の事業を外人管理の下に委する事は、氏の素志に反することであり、勿論承諾すべきことは出来ない、この苦境の中に立つて尙ほ研究を進めたのであつた。

今日我國の發明は歐米各國に伍し、その數に於て或は各國を凌駕するの現状であつて、その躍進には目醒しいものがある。而し乍らこの發明の中にはその資金の缺乏を來し、他人に讓渡する

者、更に外國人に賣り渡す者等が少くない、これ等は明かに日本人の短所とすべき忍耐力の缺陷に他ならないが、之には又發明家を補育補導して一國の誇りとすべく保護の任に當るべき資本家の覺醒がないからである。

氏の發明にかゝる謄寫版の如きは、全く經濟的には生死の境を逍遙ひつゝも、其の後援を受けず獨自の境を展開したところ、その意志と信念の偉大なる力を感じるのである。

然し乍ら斯の如き主義主張によつた堀井氏は益々窮乏に窮乏を來し、積極的に進まんとするには資金融通の途なく、さりとて消極的に出れば借財返済の術なく、今や全く進退兩難の岐路に立つて其の何れを選ぶべきかにまどひ、わづらふのであつた。

時偶々日清戦争の勃發となり、大本營を始め陸海軍に於ては、軍事通信用として本器を採用せらるゝ事となつた。而もその効果偉大なりとして多大の賞讃を受け、明治二十八年一月には陸軍省より莫大な註文があつた。

茲に於て數月に亘り晝夜兼行してその製造を急いたが、偶々製造中に火災を起して印版紙の大

半を焼失する等の厄に遭遇したのであつたが、辛うじてその數量を完納することを得て、茲に確固たる信用を築き其の後諸官廳に於ても漸次本器を採用するに至り、販路の曙光を見るに至つたのである。

然し乍ら之は單に一部の官廳の認むるのみに止まり、まだ一般人の信頼を受くるに至らなかつたので、この一般普及を圖るには更に大なる努力を以て、本器の眞價を周知せしむるの必要を感じ其の資力を傾注して、多數の行商人を全国各地に巡遣せしめ、縣廳、郡衙を初め、寒村僻地の村役場、學校に至るまで隈なく歴訪し一々説明を加へ、實演してその効果の偉大なるを示した。

而して本器を使用して後その眞價が確認されてから代價は受取る事として、百方本器の利用を勸説した。かくて本器の需要は日に月に増加を示したが、その普及を圖る爲め長期の掛賣を斷行した。

現在非常に流行しつゝある月賦制度の販賣方法は、多くは一時的な經濟的見地に立脚し飽くまでも營利を目的として爲されてゐるが、當時の堀井謄寫版は、その眞價を知らしめると共に、こ

れが一般普及を圖るべき一方法として掛賣主義を行つたもので、現在の月賦制度とはその本旨に於て異るところがある、蓋し斯うした月賦販賣としては嚆矢を爲したものと云へよう。

然しかゝる長期の掛賣は結局代金の回収に頗る困難を來し、茲に資金も漸く涸渴して原料品、工賃の支拂にも支障を生じ、又復危急存亡の厄に際會したのであつた。

茲に氏は自己の運命を畢生の事業に委ね、奮闘努力、自ら東西に奔走して金策の途を講ずるなどの苦しみを嘗めた。然しかゝる間に豫て全國に宣傳中の謄寫版は漸くその眞價を認めらるゝに至り、困難を感じてゐた掛賣金も其後漸次自發的に送金を見るに至つた。のみならずそれ等各官衙學校等の紹介により更に幾分の注文を受ける様になつて來た。

然乍らこの間氏は大いに勤儉節約を勵行し、或は一家米鹽の資をも資金の一部に充て、よく難境に處したのである。

斯の如く氏の發明後の經營は屢々苦境に沈倫したのであつたが、之等苦難を排して苦闘すること十數年、其の速寫印刷器は効果絶大なる文明の利器として、その眞價を認められ、終に文書事

務界の耳目は翕然として堀井謄寫版に集中され、全國的賞讃的となるに至つた。

尙本器發明の過程は元紀翁の考案により父子協力して、其の發明に苦心して來たが、明治三十七年四月、元紀翁が病を以て隱退した後は専ら當代新治郎氏が全般の業務を繼承して、獨力を以て幾多の發明の完成をされたのである。

現在營業の概況

堀井式印刷器の生産額は輸出品を加へて、一ケ年三百八十萬圓餘の巨額に上り、其の主要なる販路は我國は勿論、支那、露國、佛國、印度、南洋、英國に及んでゐる。現在従業員數は約三百八十名、中男三百二十餘名、女六十名であるが、其の九割は滋賀縣人である。これは氏が滋賀縣出身者である事にも起因する事であらうが、その郷里に對する愛郷心の發露に外ならないと思ふ氏は資性温情にしてよく人を愛する。「憐人より愛せよ」とは氏の主張であるが、氏の愛は即ち家庭に始まり、近親知己に及び、一縣に及び、更に一國に及ぶと言ふ。博愛主義であつて、一度

氏に接するものは必ずその愛の中に抱擁されて、限りなき親しみを覺えるのである。堀井謄寫堂が殆どその従業員を滋賀縣人をして網羅し、さながら滋賀縣人會の如き感あらしむるのも亦宜なりと云ふべきである。

扱その工場としては化學製作工場を荒川區日暮里町字金杉に置き、專屬木工場を深川區木場町及靜岡市神明町に、抄紙製造工場を、高知縣伊野、岐阜縣武儀郡上牧村に、鋳工場を向島區龜戸町に置き更に長野縣の高山地帯にはミリアタイプ印版紙研究所を設置され、堀井氏自ら巡廻指導の任に當られてゐる。

氏が如何にその研究に熱心なるかと言ふことはその生活の上によく現れてゐる。

氏には、長女エイ氏、二男彦次郎氏、次女篠子氏、三男綠郎氏等があるが、その生誕地は或は豊川町に、或は日暮里に、或は神田と、各々異つてゐる。これは氏の一事専念主義がよく表現せられたものだと思ふ。即ちその發明方面に専念しては豊川町に、その販賣方面に専心しては神田の本店に居を卜し、化學的研究に没頭しては日暮里に居を轉するのであつて、氏の足跡が如實に

現れたものと云へやう。

斯く當主の一事専念主義は一般従業員に反映し、一社員たりと雖もその與へられたる仕事に對して常に研究、考案の態度を以てして、その事業は益々發展し独自の地位を建設するに至つたのである。

今や堀井膽寫版の本邦に於ける普及状態は餘りに周知の事實であつて、如何なる僻地寒村たりとも苟も學校あり、役所ある所には、必ず本器の使用を見ざることなく、本器が事務の能率を増進し、國家文運の向上進歩に貢献せるところ極めて甚大と云はねばならない。

しかのみならず、上海、漢口、天津、京城等に支店を擴張し、對支貿易上の一地位を占めてゐることも特記すべきで、彼地に於ても至る處の官衙、學堂には「印字房」を設け「堀井老牌」として信用篤く、其の製品は國境を越えて遠く、雲南、廣東、山西、蒙古、黑龍江にまで雄飛しつゝある有様である。

ミリアタイプ印版紙の發明

膽寫版の發明を完成した氏の研究は更にタイプライター印版紙の發明に進展した。即ちミリアタイプ印版紙であつて、氏の發明中膽寫版に次いで最も功績顯著なもので氏の二大發明とも云ふべきものであらう。

此の完成が一度び海外に發表せらるゝや、或は特許權の讓渡、分權、或は一手販賣權等、専門商店よりの懇望陸續として殺倒したのである。是に據つて見るも、如何に優秀なるタイプライター印版紙に對する歐米諸國の冀望盛んにして、その需要の甚大なるかを窺知するに足るべく、當時の堀井氏の名聲は全く昇天の勢であつた。

されば當時に於ては我國の特許は勿論、米國に於ては大正十五年を始めとして十二件、英國に於ては同十五年四月を始めとして十件、佛國に於ては昭和二年八月、加奈陀に於ては同年八月特許權を與へられ、尙英、米、獨、佛、伊、澳、露等出願中のもの十九件に及び隆々たる成績を以

て世界市場に雄飛しつゝあるが、今日この名聲を獲得する迄には謄寫版同様の苦心努力が拂はれたもので、決して偶然の所産ではないのである。

即ちその發明の初期は「パラフィン」を主成分とする印版紙であつて、世界に於ける總てのタイプライター印版紙は、何れも日本特有の典具帳を基礎に加工仕上せるもので、若し我が國に於て、その天與の國產原料を使用し薄紙の取扱に熟練せる技術と、低廉なる勞力とを以て、優秀なるタイプライター印版紙を製造し得れば、嘗に世界事務界に、より以上低廉にして優良な品を提供し斯界に貢獻し得るのみならず、我國最初の開拓者としての榮冠を戴くことが出来るであらうと、氏は茲に着眼し、創業當時、未だ我が國に於て、タイプライター印版紙の需要稀なる際早くも明治二十八年十二月「パラフィン」を主成分とするタイプライター印版紙を製造し、以て曩に本邦產の竹の一種が海外に輸出せられ、それがカーボン電球と變じて、原料の數十倍の價格を以て我國に輸入賞美されしに對し、せめて自己關係の商品に於ては斯うした轍を履む事を慮れ、爾來苦心研究を重ね、幾多の波瀾無數の失敗を繰返した後、明治四十年三月に至り、始めてミリア

タイプの前身とも云ふべき發明を爲し、特許を受けた。然し乍ら未だ商品として、低廉且つ大量の製造を爲す能はず、更に改良に實驗に不撓の努力を續けたのである。

斯くて發明されたものは濕潤式印版紙であつた。タイプライター用謄寫印版紙の發見に腐心せる氏は、從來は主として、パラフィンを主成分とせる、塗劑を以て之を製造したが、これは氣温に於ける影響を受け龜裂し膠着し易く、また取扱上に生ずる皺の爲破損の缺點が免れなかつた。依つて輸出先からも之等に對する苦情と共に、之を完成すべき好意的希望の切なるものがあつた。茲に氏はその責務の重大なるを痛感し、且つ世界の何れの國に於ても未だ満足なる之が代用の發明せられざる事を觀取し、之に希望をかけて、大いに奮起し、塗劑の根本的研究及改良を企圖し同時に抄造、加工の方面にも改善を施し、苦心慘憺不撓不屈の考究を續け、遂に大正八年、コロイドを主成分とせる塗劑を以てミリアタイプ印版紙を完成するに至つた。即ち世界に於ける此の種印版紙完成の第一人者として、堂々斯界の世界的重鎮として、自他共に許さるゝに至つたのである。斯くて之を歐米に輸出し、絶大の好評を博したが、たゞ打字に際し濕潤により、タイプラ

イターを汚染するの小缺點があつた。依つて更に進んで乾燥式の發明に研究の歩を進めた。然し乍らコロイドを主成分とする印版紙は、使用に際し濕潤なれば操作上に手数を要し、従つてタイプライターを汚染する嫌があつたので、更に萬全を期し乾燥式に向つて研究を進め、大正十三年七月に略々成案を得たが、不幸震災の爲め試験品を始め、關係物件の全部を焼失し大なる蹉跌を來した。この艱難に遭遇しながらも自ら志氣を鼓舞し、その研究を繰返し、且つ耐熱、耐寒の研究の爲には長野縣の高原地帯に研究所を設けたのである。

當時この研究所を見た隣村の人々は齊しく驚異の眼を以てした。

「君、今度高原に出來た家を知つてゐるか」

「いや知らない」

「さうか、今度高原へ妙な家が出来たんだがね、ありや何でも東京の方の前科者ださうだよ」

「さうかなあ、お互に氣をつけないといけないよ」

と云ひ、或は、

「そんな事はない、あれは農事試験場で、何でも東京の成金が道樂に研究をしてゐるのださうだよ」

とも云ひ、或人は

「もう一ヶ月にもなるのに、あそこに住んでゐる人の顔を見た人が一人もないさうだ」
等、想像、憶測區々としてその歸する所を知らざる状態であつた。

斯くて一日遂に警察よりの臨檢があつた。この日堀井研究所に於ては當主新治郎氏は打ちひろげた印版紙に薬品を塗布し、その研究に没頭して居つたのであつたが、警官の質問に對し、その経過を説明した。之より村民も警官も始めて、その真相を解し、習日は改めて警察よりは謝意を述べ、産業獎勵の爲にも折角精進される様激勵の言葉さへあつたのである。

かく苦心慘愴遂に多糖類エステルを主成分とする印版紙を發明し、茲に多年の熱望を達するこ
とを得、世界の發明家をして瞠若たらしめ、世界市場に悠々濶歩する事が出來たのである。

然れどもその需要の甚大なるに鑑み、益々その所信を固くし、創業以來の宿望を遂げんと尙研

究に研究を重ね、目下輸出發展の爲にその設備の完璧を期してゐる。

尙同店及倉庫は大正十二年九月の大震災火災に逢ひ悉く烏有に歸したが、平常の堅實なる營業方針はよく之を支へて、益々其の事業と社會奉仕との一致を實現しつゝある。一代の發明家堀井氏の發明と事業とは今後文化的貢獻と相俟つて益々輝かしい將來を現出するであらう。

光榮と榮譽の數々

堀井騰寫版は今やその独自の眞價と、社會的文化への貢獻とが認められ、大正五年五月八日には元紀翁積年の事蹟に對して、長くも勅定の綠綬褒章を下賜せられ、又大正六年十一月十六日には彦根大本營に氏を召されて事蹟に對する御下問があつた。尙先帝陛下滋賀縣御幸の際は、堀井輪轉騰寫器を奉獻したところ、御嘉納あらせられた。

大正十一年四月二十九日には帝國發明協會表彰審査規定に依つて、表彰狀並に優等賞牌、大正十五年九月十七日帝國發明協會からは最高の榮譽たる帝國表彰の際、騰寫版及ミリアタイプ印版

紙に對して、二個の有効賞牌を、昭和四年十月十六日には騰寫版及ミリアタイプ印版紙に對し、二個の特等賞牌、昭和四年十一月三十日には、日本産業協會總裁伏見宮殿下より、産業貿易功勞者として表彰せられた。其他内外博覽會、共進會に於て名譽大賞、金銀銅牌七十餘個を授與せられてゐる。

◇ ◇ ◇ 我特有の國民精神と發明

我國文化の發展に伴ひ、文書事務は日一日として繁雜を極めるに至つた時、騰寫版の出現と一般實用化は、さなきだに煩雜な我國文書事務上に劃期的な敏捷さを來したと共に、之を使用する者、せざる者も、直接間接に受くるところの利益は甚大なものがあらう。

故に堀井父子の苦心と努力による、此の國家的發明に對しては、何人も等しく敬意と感謝を捧げるところであるが、又一面に於て、模倣をこゝとした過去の日本國民性に對して、將來大なる創造と發明の、刺戟と希望を強めた偉大なる貢獻をも認めなければならぬ。

凡そ如何なる發明、發見も單なる苦心や努力のみにては、到底其の成果は期することは出來ない、其處には必ず人間の耐へ得る以上の、不撓の精神と不屈の信念がある。此の強い精神力こそ總ての發明、發見に對する基礎的信條である。

然も我國には建國以來二千五百有余年間、東洋文化の凡らゆる精華を攝取し、之を陶冶して、世界に誇る独自の精神文化を築き上げた偉大な國民性がある。

故に物質科學文化に於ても、列國の後塵にあつた我國が、明治以來僅々五十年間に實に驚異的な一大飛躍、發展を遂げて、今や世界の三大文化國の域に到達したではないか、これは云ふまでもなく我國民の特性である偉大な精神力の賜である。

此の光輝ある傳統的な國民精神を基礎として將來の科學文化の發展に、全的傾倒が爲されたならば、獨り我國のみで無く世界に貢獻する幾多の、發明、發見が出來得るであらう。

堀井氏が今日斯くの如く、國民に對して無言の裡に、發明への刺戟と關心とを與へると共に、我國發明工業界の先陣を爲すに至つたのは、唯だ氏が一個の發明家のみでなく、強い信念を持つ

と同時に、愛國的至誠が有つたからである。

即ち謄寫版發明の初志に於ては、我國文化の進展の上、文書事務の簡易化が最も急務なることを痛感されたのが動起であり、ミリアタイプ印刷紙發明も、我國が薄紙製法に獨特の技術を有しながらも、之れが加工の先鞭を外國につけられるのを虞れたが故である。

然かも謄寫版の一般普及化に對しての、氏の態度には、實に敬腹すべきものがある。

例へば謄寫版の普及、實用化されつゝある、現在に於ては、各種の謄寫版製造業者が簇出して屢々類似品の發賣、特許權の侵害などの問題を耳にすることがある。此の場合に際して氏は常に、謄寫版の普及は唯 自己の利益のみが目的でない、如何なる品にても其れが能率的で經濟上の利益があるならば、社會的に實用化されるに當つて、些少の特許權問題の如きは何等意とするに足らぬ。と云ふ極めて社會的寛大な態度を持してゐる。

何と、尊い發明家氣質の片鱗ではないか。此の國家社會に對する觀念こそ、總ての發明、發見に最も肝要なところである。

典型的發明家堀井氏

總ての發明には、國家社會に對する奉公の念がなければならぬのは勿論であるが、又理想と自信を任せぬ修養された忍耐力が必要である。處生の上に於ても、世間の毀譽褒貶が有る如く、まして發明家には、好奇の念に驅られた色々の批評が行はれる。然し此の場合常に泰然自若として毫も逡巡するところなく、自己の理想に邁進する強い忍耐力がなくてはならぬ。

世間の批評にその心が動搖して左顧右眄しては、到底何事も成し遂げることは出来ない。堀井氏が過去の種々の批評に對して、超然として、確固とした信念を以て彼岸達成の爲め邁進されたところに、今日の堀井騰寫版が生れたのである。

殊に發明家の苦心、努力による完成の尊さは、單なる事業家の成功者と自ら異なる所がある。

即ち事業上の成功にも、努力はある、奮闘もある、然し事業家の成功は所謂運不運の如何が重大な役目を爲してゐる場合が多い。

それに反して發明の完成には、此の所謂運の助力によるところ最も尠く、全く發明家の苦心と研究が大部分なることを忘れてはならぬ。

發明事業は以上の如くに、世評を超越して堅忍不拔の信念のもとに、一意彼岸達成に揮身の努力を傾け盡すと共に、今一つは發明家の繊細な頭腦と鋭敏な注意力が必要である。

かのゼームス・ワットが湯氣が鐵瓶の蓋を押上げるのを見て、蒸氣力を機械に利用することを考へついたのも、林檎が木から肩に落ちたのを推理して、ニュートンの引力の法則が生れた事も普く人の知悉するところである。その他吊橋が蜘蛛の網からヒントを得て考案され、鐵管の継ぎ合せ目が蝦の胴から考へ出されたなど、如何にその繊細な頭腦と鋭敏な注意力が發明の根基を爲してゐるかを知らることが出来よう。

今堀井氏の波瀾多き苦闘の跡を偲ぶときは、氏が發明家としての要素を凡て兼有し、窮乏の生活と闘ひ乍らも決して研究の歩を緩めず、不拔の發明心に加ふるに、周到鋭敏なる注意力を以てし、遂に永年の初志を貫徹して發明なり、發明の完成後に於ても、常に國家を愛する念に燃え、

外國人などに譲渡せず、飽迄これを皇國の光輝ある發明品として保存した。

誠に氏は典型的な發明家と云はねばならぬ。而も功なり名遂げ、産を成した今日と雖も安逸を事とせず、尙ほ謄寫版の一層の完備の爲め日夜精勵されつゝあるは、廣く世の龜鑑とすべきものがあらう。

謄寫版の實用化に就いて

今やこの謄寫印刷は普く人の知るところとなつて、一般的に實用化されるに至つた。

然乍らこの謄寫版の活用は未だ充分徹底せざる憾みがあつて、殊に優秀なる印刷物の如きは、全く斯業者の専有技術の如く見做されつゝある事は誠に遺憾とするところである。

謄寫版の特長とする點は何人にも迅速、低廉、容易に印刷し得るところにあつて、例へば家用少數印刷物（書簡箋、封筒、傳票其他一般書式及び廣告、宣傳、通知書類、相場表等）の如きは印刷所を煩すまでもなく、簡単な注意によつて何人にも印刷が出来得るのである。

且つ高級なる美術印刷に至つては、獨得の雅致を有し、既に木版の領域を凌駕して、一部の人々の間には謄寫版印刷は實に、實益と趣味とを併有する「磨かれざる寶玉」として、その發達の前途無限なる事を叫ばれつゝある現狀である。

而して謄寫版は以上の如き特長を有つてゐるに拘はらず、その使用は極めて簡便にして、一週間位にしてその概要を會得し得るのであり、警視廳の如き從來とかく、諸官衙に比し、その技術に於て多少劣つてゐた觀があつたが、毎年謄寫版使用の講習會を開く等、熱心なる研究により、現在はその技術に於て斷然他の官衙を壓するの實狀である。

陸軍省はこの點最も優秀な技術を誇りつゝあるが、早くより之が研究に腐心し、字體の如きも軍人精神の然らしむるところか、正確、明瞭に書する爲め、その印刷物は極めて鮮明優美なものがある。

更に本器の實用化に就て痛感されるのはこれが使用法の指導である。即ち今日小中學校等の卒業期に在る學生には是非とも、この使用法を教ふるの必要があらう。

從來タイプライターの如きは、一定の期間に亘つて技術を修得するに非れば、その利用を爲し得るものではないが、謄寫版の如きは之が一般的に普及されてゐる爲めか、素人でも使用し得るが如く思惟し、官衙、會社、銀行等に奉職せる小、中、學校卒業者をして、直ちに之を實施せしめ、爲めに事務能率を殺ぐが如きことは尠くない。

故に卒業期の生徒に對して希望に應じて、之を指導し其の技術の修得を爲さしめることは、將來獨立の上に於ても實際事務の能率の上に於ても最も肝要なことであらう。

謄寫版の發明家
堀井新治郎苦闘傳

昭和七年十二月十日印刷
昭和七年十二月十五日發行

【非賣品】

著者 日統社編
發行者 中村一市
東京市芝區西久保巴町四十六番地
印刷所 日統社印刷部
東京市芝區西久保巴町十七番地
印刷者 荒川富次郎

不許
複製

東京市芝區西久保巴町四十六番地
發行所 日統社
電話首(43)二五九四番

告 豫 刊 近	刊 既
<p data-bbox="494 641 608 1592">山サ醬油の歴史と十代濱口儀兵衛氏</p> <p data-bbox="664 641 777 1581">『味の素』の今日を築いた鈴木商店の人々</p>	<p data-bbox="1244 597 1329 1437">國家觀念の喚起を翹望す</p> <p data-bbox="1173 785 1244 1382">附光榮の大塚家に就て</p> <p data-bbox="1003 597 1173 1670">近代物質文化の躍進は、個人中心の主義となつて、國家觀念が漸次弛緩して來た。ボルシエズム、マルキシズムの跳梁に對する、大和民族抱負と國家的理想を明らかにす。</p> <p data-bbox="890 774 975 1128">株界第一人者</p> <p data-bbox="820 895 904 1592">沼間敏郎氏</p> <p data-bbox="1003 597 1088 1670">附は寶藏院流槍術の指南であつた、大塚岩治郎氏が現在年産、六十萬足の製靴を製造するに至るまでの苦闘傳。</p>
<p data-bbox="494 1725 707 1813">御申越次第無料 郵送致します</p>	<p data-bbox="1102 1725 1329 1813">久西區芝市京東 地番六十四町巴保</p>

日統社發行

中村一一著

四六判洋裝假製
紙數二百五十餘頁

近刊

大和魂の本體

現在歐洲の識者、思想家等の間に於て、東洋文化に對する禮讃、渴仰の聲と共に、世界無比なる我大和魂の研究熱が擡頭して來た。然らば大和魂とは何か？ 即ち日本國民的意識であつて、そこに政治あり、經濟あり、宗教がある。
本書は日本國民思想の根本的規準たる、大和魂の検討であり、考察である。

中村一一著

日本主義的一考察

附 玉塚氏の天保錢主義

科學文化の進展に伴れて、極度に理論偏重、物質萬能となつた現代生活に對しての日本主義的一考察と明治時代の自我、功利擡頭に對して、道義的精神を強調した天保錢主義

中 村 一 一 著

服部金太郎氏の横顔

リットン報告
書の支那認識

一、我國時計工業の發展と服部氏、二、彼の個性に關れた正直と正確、三、彼は財界唯一の人格者、四、政治家と肌の合はぬ彼、五、服部報公會を設立した彼。

小布施新三郎小傳

愛國の士

小布施氏が、愛國の至誠の爲め、飛行機獻納に三十一万円を出された事は、我國最初であり其後續々愛國號の獻納となつた。即ち先覺者小布施氏の小傳。

水原嘉兵衛小傳

奮闘の人

水原氏は、克己、忍耐、の權化である、その切瑛琢磨の辛勞は活ける模範の典型である。又謙讓な人格者として知られた菓子舗『清月』主の奮闘傳

日本主義的動向

附

東京府農工銀行支配人
杉本正幸氏の信仰生活

國難打開の爲めに國民の血潮から喚起された、大和民族精神の動向と一信念の人たる杉本正幸氏の尊い生活體驗の一觀察

東京市芝區西久
保巴町四十六番地

日統社發行

御申越次第無料
郵送致し

東京市芝區西久
保巴町四十六番地

日統社發行

御申越次第無料
郵送致し

日 統 社 編

清水組と清水釘吉氏の自彊術

清水組は、今や自他共に許す建築界の霸王である。現社長釘吉氏は清水家中興の英主であり、自彊術學院長として又社會的に貢献されてゐる。

老舗越竹の沿革と高橋竹藏氏

成功の要素として運、鈍、根と云ふ、然し更に必要なのは才である。高橋氏は實に運、根、鈍を併有する外に、智慧才覺の商傑であつた。本書はその奮闘傳。

錦秋高等女學校長 秋間爲子女史の足跡

秋間女史は子女教育に、敬神崇祖、婦徳涵養、勤儉質素をモットーとして、その全靈を捧げた人である。而かも自ら實踐躬行して範を示した尊い足跡である。

國家中心主義と澁谷正吉氏

澁谷氏は現下實業界に飛躍する好個の紳士であ、皇室中心主義を高唱する國士的人物である。彼の過去の奮闘史は、よく懦夫をして起たしめるものがある。

東京市芝區西久
保巴町四十六番地

日統社發行

料無次第越申御
送致します

日
統
社
刊
行

終